

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書】(中学校用)

都道府県名	宮 崎 県
-------	-------

・ 学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	宮崎市立大塚中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	6	6	7	1	20	36
生徒数	218	218	257	1	694	

・ 研究の概要

1. 主題 (テーマ)

確かな学力を身に付け、新しい時代を切り拓いていく生徒の育成

2. 内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年・全9教科 (学校として全体的な学力の向上を目指しているため)

(2) 年次ごとの計画

平成 14 年 度	<p>テーマ</p> <p>豊かな人間性を育む学習活動の工夫</p> <p>研究の見通し (仮説)</p> <p>(1) 学校の全教育活動を通して正義感・倫理観や思いやりの心など豊かな人間性を育む場を提供していけば、生徒一人一人の感性を豊かにし、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考える姿勢につながり、生きる力を身につけられるだろう。</p> <p>(2) 各教科において基礎基本の徹底を工夫し、評価の在り方を充実させていけば、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考える姿勢につながり、生きる力を身につけられるだろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>(1) 豊かな人間性の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の意識調査 ・ 校務部による具体的実践 <p>(2) 基礎・基本の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実態把握 (教科意識調査の実施) ・ 各教科の徹底したい基本事項のまとめ (全職員による研究授業の実施) ・ 問題解決的な学習の推進 <p>(3) 評価の研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導案の形式の検討 (指導と評価の一体化) ・ 絶対評価の確立と研究 <p>(4) 習熟度別少人数指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 選択教科での一部導入 (発展, 補充的な学習の開設) ・ 必修教科 (数学, 英語科) での導入
--------------------	--

テーマ

個に応じたきめ細かな指導と評価の一体化の工夫

研究の見通し（仮説）

- (1) 選択教科や必修教科で生徒の実態を考慮した学習活動や学習形態の在り方を工夫していけば、確かな学力を身につけられるだろう。
- (2) 各教科において生徒の意欲を高めるための評価の在り方を充実させ、それを日々の学習指導に生かして指導と評価を一体化させていけば、基礎学力が定着し、確かな学力を身につけられるだろう。

研究内容・方法

- (1) 豊かな人間性の育成
 - ・ 本校の生徒の実態把握
 - ・ 各校務部でそれぞれの視点から対策の工夫
- (2) 評価と指導の一体化
 - ・ 各教科の評定算出方法の確立と共通化（保護者への説明も含めて）
 - ・ 自己評価表の改善と評価規準の改善
（十分満足できると判断される生徒や努力を要する生徒への手立て）
 - ・ 単元ガイダンスの充実と単元テストの効果的な活用
 - ・ 指導案の形式の工夫
 - ・ 授業研究
- (3) きめ細かな学習指導の工夫
 - 必修教科（数学・英語）
 - ・ 教科の意識調査
 - ・ 習熟度別クラスの学習形態と教材の工夫
 - ・ 指導過程の工夫（習熟度別）
 - ・ 授業研究
 - 選択教科
 - ・ コースの開設の工夫
 - ・ 指導内容の確立（年間計画の改善）
 - ・ 教科の意識調査
 - ・ 指導過程の工夫（補充・発展）
 - ・ 授業研究

テーマを「選択教科の学習指導の展開の工夫」から「きめ細かな指導と評価の一体化の工夫」にすることで評価との結びつきを考え、選択教科の意義や内容もより深められると判断したため。評価の研究内容に自己評価の研究を取り入れることで、指導法の改善が図れると考えたため。

平成
15
年
度

テーマ

個に応じたきめ細かな指導と評価の一体化の工夫

研究の見通し（仮説）

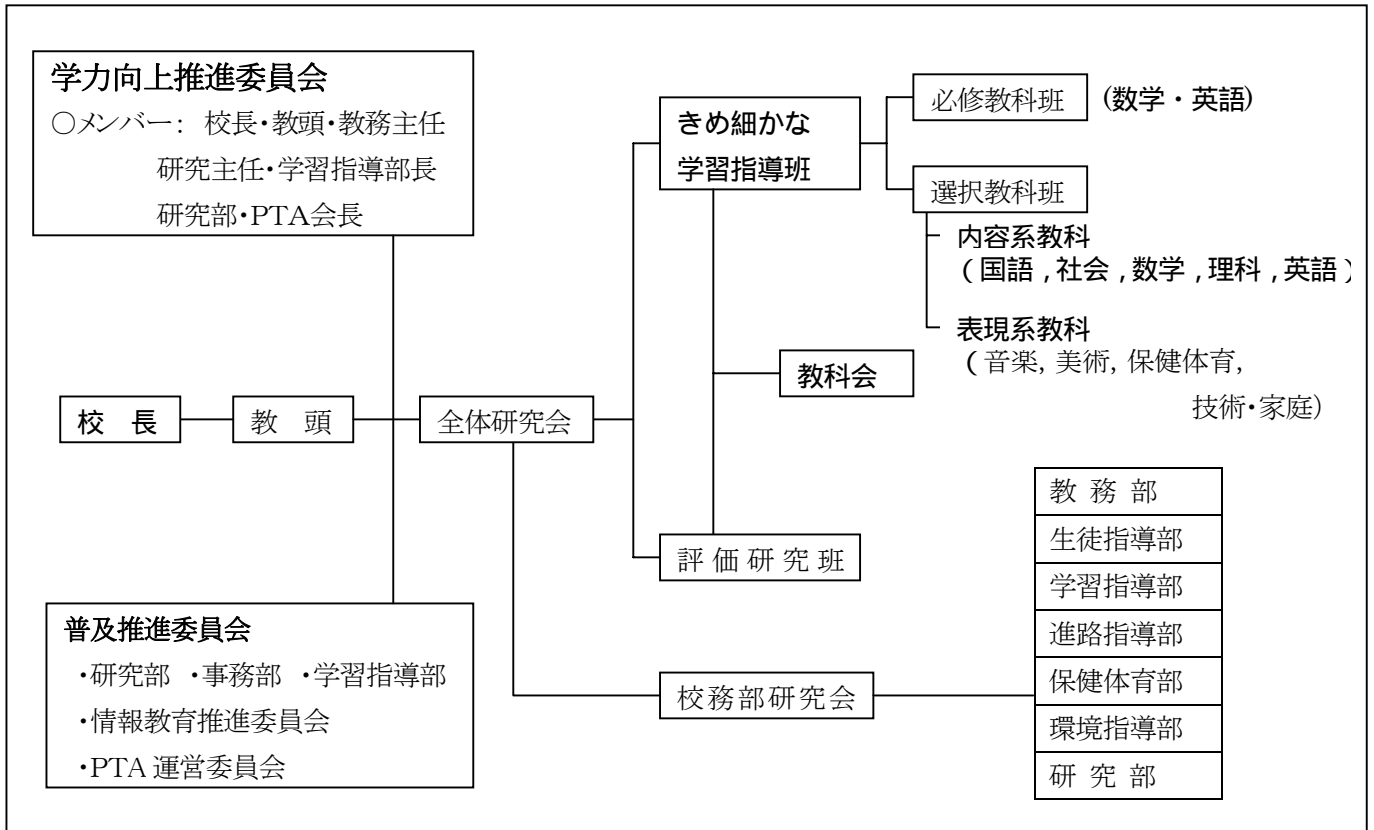
- (1) 選択教科や必修教科で生徒の実態を考慮した学習活動や学習形態の在り方を工夫していけば、確かな学力を身につけられるだろう。
- (2) 各教科において生徒の意欲を高めるための評価の在り方を充実させ、それを日々の学習指導に生かして指導と評価を一体化させていけば、基礎学力が定着し、確かな学力を身につけられるだろう。

研究内容・方法

- (1) 豊かな人間性の育成
 - ・ 本校の生徒の実態把握
 - ・ 各校務部でそれぞれの視点から対策の工夫
- (2) きめ細かな学習指導と評価の一体化の工夫
 - 必修教科
 - ・ 自己評価を取り入れたガイダンスの充実と授業実践
 - ・ 単元ガイダンスの充実と単元テストの効果的な活用
 - 選択教科
 - ・ 必修教科に関連する指導内容の確立（年間計画の改善）
 - ・ 指導過程の工夫（補充・発展）と評価の研究
 - ・ 授業研究
- (3) 少人数学習指導の工夫
 - ・ 習熟度別クラスの学習形態と教材の工夫
 - ・ 指導過程の工夫（習熟度別）
 - ・ 授業研究
- (4) 授業を支えるきめ細かな学習環境の工夫
 - ・ 家庭学習の支援の工夫
 - ・ 生徒の意識調査
 - ・ 家庭との連携の工夫（評価の結果について）
 - ・ 校内の学習環境の整備

平成
16
年
度

(3) 研究推進体制



きめ細かな指導と評価の一体化をすすめるために、班を大きく2つに分けた。評価研究班では、各教科の教科主任を中心に構成し、きめ細かな指導を行なうための評価を研究した。さらに、きめ細かな学習指導班では、習熟度別少人数指導の数学、英語科の必修教科班と全教科で構成する選択教科班に分けて行った。

平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

- (1) 生徒の学力を正しく評価することで、きめ細かな指導の内容が明確となり、生徒の学習に対する意欲を高める手立てを工夫できた。
 - ・ 教科の意識調査の結果で「関心・意欲・態度」の観点が5教科上昇し、下がった教科はなかった。(調査は6月と12月に実施)
 - ・ 1学期の評価で(本校は2学期制の試行)、全教科の「関心・意欲・態度」の観点の評価が「B」以上の生徒の割合が95%である。(Aの生徒が42%である。)
- (2) 評価方法や評価の視点が確立され、生徒の実態が把握しやすくなったことで、授業における個に応じた指導のポイントが明確になった。
 - ・ 全教科で評価方法を一覧にまとめ、評価の方法を説明できるようになった。
 - ・ 1学期の評価で、全教科の評定の「3」以上の生徒の割合が87%である。
- (3) 自己評価などで単元やコース内容に関するガイダンスを充実させることができ、生徒が学習内容や評価の視点を明確とすることができ、見通しを持って学習に取り組めるようになった。
 - ・ 全教科で単元の計画や評価の視点の組み込まれた年間計画を作成し、自己評価表に活用できた。

- (1) 生徒の学力を正しく評価することで、きめ細かな指導の内容が明確となり、生徒の学習に対する意欲を高める手立てを工夫できた。
 - ・ 教科の意識調査の結果で「関心・意欲・態度」の観点の5教科上昇し、下がった教科はなかった。
(調査は6月と12月に実施)
 - ・ 1学期の評価で(本校は2学期制の試行)、全教科の「関心・意欲・態度」の観点の評価が「B」以上の生徒の割合が95%である。(Aの生徒が42%である。)
- (2) 評価方法や評価の視点が確立され、生徒の実態が把握しやすくなったことで、授業における個に応じた指導のポイントが明確になった。
 - ・ 全教科で評価方法を一覧にまとめ、評価の方法を説明できるようになった。
 - ・ 1学期の評価で、全教科の評定の「3」以上の生徒の割合が87%である。
- (3) 自己評価などで単元やコース内容に関するガイダンスを充実させることができ、生徒が学習内容や評価の視点を明確とすることができ、見通しを持って学習に取り組めるようになった。
 - ・ 全教科で単元の計画や評価の視点の組み込まれた年間計画を作成し、自己評価表に活用できた。
- (4) 習熟度別クラスの学習や選択教科において生徒の多様な要求に応じられるような開設の工夫によって、個に応じたきめ細かな指導が展開でき、生徒の意欲も高められた。
 - ・ 1学期の評価で、数学、英語の「関心・意欲・態度」の観点の評価が「A」生徒の割合が58%である。
 - ・ 1学期の評価で、数学、英語の評定の「4」以上の生徒の割合が41%である。
- (5) 全職員で研究授業を実施することにより、教師間の意見交換が活発となり、個に応じた効果的な学習指導の在り方を工夫できた。
- (6) きめ細かな指導と評価の一体化の工夫を行ったことで、評価や指導に対する職員や保護者の意識が深まり、確かな学力を身に付けさせるための授業改善につながった。

2. 今後の課題

- (1) 教科に対する「関心・意欲・態度」については、多くの視点で生徒を的確に評価するために、よりよい評価方法の改善が必要である。
- (2) 教科、単元、本時の目標の関連を整理し、年間における単元の位置付けを把握することで、単元テストを効果的に運営する。
- (3) 習熟度別少人数指導の目的を生徒に理解させ、生徒の実態に即した授業を行うためにコース間の移動を容易にし、教材を工夫していく。
- (4) 選択教科の評価方法を工夫する。
- (5) 「確かな学力」を身に付けさせることを目標として研究しているが、目標とする生徒の具体的な状態を明確に示せず、今後職員間の理解の徹底も必要である。
- (6) 学力を定着させるために、家庭学習の習慣をつける手立てを研究するとともに、保護者・地域との連携を密にしていく必要がある。

学力把握のための学校としての取組

- ・ 標準学力検査(NRT, CRT)の実施(年2回, 4月と1月に実施)

- ・ 3年生における学力テストの実施（年5回）
- ・ 2年生における学力テストの実施（年1回）
- ・ 2年生における学力調査の実施（年1回）
- ・ 本校生徒の学力の意識調査（意欲，思考・判断，表現・技能，理解）（年2回，6月と12月に実施）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

(1) 中間発表会

- ・ 日 時 平成15年11月28日(金)
- ・ 場 所 宮崎市立大塚中学校
- ・ 対 象 宮崎教育事務所管内小・中学校 参加人数 93名
- ・ 内 容 研究授業，授業研究会，研究協議会
- ・ 協議題 生徒一人一人に確かな学力を身に付けさせるためのきめ細かな指導と評価の在り方について

(2) HP作成等の工夫 ・ <http://www.mcnet.ed.jp/ohtsuka-c/>

(3) 研究紀要の発行

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- | | | | | |
|----------------------|--|--|--|---|
| 【新規項校・継続校】 | 15年度からの新規校 | <input checked="" type="checkbox"/> 14年度からの継続校 | | |
| 【学校規模】 | 3学級以下 | 4～6学級 | | |
| | 7～9学級 | 10～12学級 | | |
| | 13～15学級 | <input checked="" type="checkbox"/> 16学級以上 | | |
| 【指導体制】 | <input checked="" type="checkbox"/> 少人数
その他 | T・Tによる指導 | | |
| 【研究教科】 | <input checked="" type="checkbox"/> 国語 | <input checked="" type="checkbox"/> 社会 | <input checked="" type="checkbox"/> 数学 | <input checked="" type="checkbox"/> 理科 |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 外国語 | <input checked="" type="checkbox"/> 音楽 | <input checked="" type="checkbox"/> 美術 | <input checked="" type="checkbox"/> 技術・家庭 |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 保健体育 | | | |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | | <input checked="" type="checkbox"/> 有 | 無 | |